

西播磨地域

「豊かな「水」と「緑」に育まれた個性輝く農林水産業」

I 施策の展開方向

1 西播磨地域の特色（現状・課題）

西播磨地域は、県土のおよそ5分の1を占める広大な面積を有し、南北に揖保川と千種川が流れています。地域の約8割を森林が占め、北部の豊かな森林から南部の温暖な平野を経て播磨灘に至るまで、多様な気候と風土に恵まれています。

北部では県内有数の素材生産量を誇る林業が営まれ、南部では水稻・麦・大豆などの土地利用型作物が生産されています。さらに、干拓地ではだいこん・にんじんなどの露地野菜、山間部では大規模畜産、播磨灘ではカキの養殖といったように、地域の自然条件を活かした多彩な農林水産業が展開されています。

一方で、経営規模が比較的小さいため競争力が弱く、就業者の高齢化やリタイアによる担い手不足が深刻化しています。加えて、生産コストの上昇や夏場の異常高温による収量の不安定化など、経営環境は厳しさを増しています。

2 めざす姿と施策の展開方向

西播磨地域の農林水産業は、豊かな「水」と「緑」に育まれた地域条件を活かし、多彩で魅力的な農林水産物の生産活動を多様な人材が持続的に行う「個性輝く農林水産業」の実現を目指していきます。

そのために、地域の特色を活かした産物の生産振興を進めるとともに、土地利用型作物を中心にスマート農業技術の導入や堆肥利用の拡大など、環境と資源循環に配慮した持続可能な農業を推進します。

また、次世代を担う人材の確保・育成を重視し、都市住民や障害者など多様な人々の参画を促しながら、農林水産業への関わりを広げていきます。

さらに、地域の暮らしを守るため、集落ぐるみで農地や水路などの農業用施設、里山などの地域資源を保全する取組を支援します。加えて、ため池や山地災害、高潮・津波などに備えた防災・減災対策を推進し、安全で安心な農山漁村づくりを進めていきます。

II 主な取組内容

推進項目1 人と環境にやさしい農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開

1 人と環境にやさしい農業の推進

SDGs への関心の高まりや「みどりの食料システム戦略」策定などの情勢変化を踏まえ、西播磨地域に適した農業生産の確立と推進を図ります。また、生産体制の強化に向け、病虫害対策技術などの改善にも取り組みます。

令和6年5月にオーガニックビレッジ宣言をした上郡町においては、地域資源を活用した有機農業の実践を支援するとともに、環境に配慮した農業の重要性や食文化を伝える食農教育の推進を支援します。これらの取組を西播磨地域全体へ広げ、持続可能な農業の展開を図ります。



水田除草機による農業削減実証（上郡町）

2 スマート農業の拡大

農業、畜産業、森林・林業、水産業、鳥獣害対策の各分野において、高齢化や担い手不足に対応し、労働負荷の低減と高品質な生産の維持を目指して、スマート農業技術の導入を進めます。

特に西播磨地域の大規模経営体や営農組織が担う土地利用型作物では、ドローンの活用拡大をはじめ、高性能草刈機や自動水管理システムなどの導入を促進し、地域の営農条件に適したスマート農業技術の体系化を図ります。導入にあたっては、機械のシェアリングや農業支援サービス事業者による作業請負を推進し、経営規模に応じた技術導入を支援します。



ドローンによる黒大豆の防除（相生市）

3 担い手育成と効率的な農地利用

経営感覚に優れ、地域農業の中心となる担い手を確保・育成するため、法人化に向けた指導や、収益性の高い作物導入による経営の複合化、自ら加工・流通・販売を行うなどの経営の高度化・多角化を支援します。

また、新規就農者については、相談段階から定着までを一貫して支援し、円滑な就農を促進します。

さらに、集落の話し合いに基づき市町が策定した「地域計画」の定期的な見直しを通じて、認定農業者や集落営農組織など地域の担い手を明確にし、農地中間管理事業を活用した効率的かつ総合的な農地利用を推進します。



西播磨での就農を促すガイドリーフレット

4 生産基盤の維持・強化

人口減少や高齢化が進む中、限られた労働力で生産性の向上と効率化、高品質化を図るためには、担い手の農地集積・集約とあわせて、生産を支える基盤整備が重要です。

このため、地域や担い手のニーズに応じて、スマート農機の作業効率を高める大区画化や用水路のパイプライン化を進め、あわせて暗きょ排水などにより耕作条件を整えた汎用水田への転換を推進します。

また、農業水利施設のライフサイクルコスト縮減と長寿命化を図るため、老朽化が進む井堰や揚排水機場、用排水路などについて機能診断を実施し、機能保全計画を策定して、適切な時期に補修・更新を行います。

加えて、維持管理を担う土地改良区の体制強化に向け、小規模土地改良区の合併などを支援します。

大区画化水田での自動運転田植え作業（太子町）

推進項目2 需要に応える持続可能な畜産業の推進

畜産業の担い手を確保するため、後継者への円滑な経営継承や、雇用就農者による第三者経営継承を推進します。あわせて、飼料作物の収穫調製技術や飼養管理技術、経営技術の習得支援に取り組みます。

肉用牛や酪農経営では、近年の多頭化傾向に対応するため、牛舎の整備やスマート機器、機械の導入を支援し、飼養管理技術の改善を進めることで、収益性と生産性の向上を図ります。

また、肉用牛では、神戸ビーフの素牛となる但馬牛の増頭を進めるとともに、「但馬牛肥育マニュアル」に基づく飼養管理技術の改善を通じて、神戸ビーフ認定率の維持・安定化を図ります。

酪農では、先進的な牛舎整備や機械の積極的活用による生産性向上と省力化を進めるほか、牛舎の暑熱対策などによる環境改善や乳質の向上に取り組みます。また、デントコーン等の高泌乳牛向け自給飼料の増産を推進し、自給飼料の安定確保を図ります。



大規模ほ場で栽培される
デントコーン（赤穂市）

小規模養鶏では、直売割合の向上や他地域との差別化など、特色ある経営展開を進め、経営の安定化を図ります。

耕畜連携については、地元の耕種農家と畜産農家の間で行われている堆肥・稲わらの交換を継続・強化するとともに、堆肥化処理施設で生産された堆肥が地域内で円滑に流通するよう、堆肥マップの作成など関係機関と連携して取組を進めます。さらに、稲 WCS 等の自給飼料を活用した畜産経営のコスト削減を図るため、生産を担う耕種農家との連携を深め、自給飼料の作付面積拡大を推進します。

推進項目3 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

森林資源の循環利用と林業経営の効率化を図るため、林道や作業道の開設を進めるとともに、既存林道の機能強化や維持管理を推進します。また、主伐・再生林の低コストモデルの構築に取り組み、持続的な森林経営を支えます。



木材市場での市売り状況
（宍粟市）

今後、分収林契約の解約地などを中心に森林経営管理制度の活用が進むことが見込まれる中で、新たな支援組織と連携し、市町への支援体制を強化します。

近畿有数の原木取扱量を誇る木材市場を中心に県産木材の流通体制を強化します。大規模製材工場を最大限に活用し、品質・価格・供給量の面で外国産材に対して競争力を持つ、効率的な加工・流通体制の確立を進めます。



集まれ林業男子・林業女子
（宍粟市）

あわせて、地域の工務店や加工業者など実需者と連携し、地域の住宅建築におけるニーズを的確に把握し、需要に応じた加工・流通体制の整備を推進します。

次代を担う林業就業者の確保・育成に向けて、林業労働力確保支援センターや森林大学校などと連携し、林業経営体の技術力や安全性の向上を支援します。また、「集まれ林業男子・林業女子」の取組を通じて、若い世代に林業の魅力を発信し、林業・木材産業の仕事への関心を高めます。

さらに、「木育」の推進にあたっては、保育・教育機関や大型商業施設などで木製玩具・遊具に触れる機会を設け、木の温もりや良さを実感してもらうとともに、森林の多面的機能や木材利用の意義について理解を深める啓発活動を進めます。

推進項目4 豊かな海と持続的な水産業の実現

「豊かな海の再生」を実現するため、漁業者による海底耕うんやカキ殻散布等をはじめとした豊かな海創生活動による底質改善や浅場、藻場等の生物生息環境の保全・回復等の取組を推進します。

「兵庫県栄養塩類管理計画」に基づく栄養塩類増加措置の実施について、関係機関に更なる協力を求める等、森・里・ため池・川・海が連携した陸から海への栄養塩類供給を促進します。

海域の生産力の底上げを目指し、海底の有機物を分解し、栄養塩類の放出が期待されるナマコやクマエビ、養殖用種苗としても重要なアサリ等の資源状況や漁場環境に適した魚種の種苗生産・放流等の生態系との調和を保った栽培漁業を展開します。



カキのシングルシード養殖
(赤穂市)

科学的な資源調査に基づく漁獲可能量の設定等の新たな資源管理システムにより、持続的な水産資源の利用に向けた資源管理を推進します。

また、遊漁者に資源管理に対する理解を求め、公的規制の遵守を図るための啓発活動を推進します。

収益性の高い養殖業の確立を目指し、カキ等の二枚貝やサケ科魚類(ローカルサーモン)の新技术の開発と普及を総合的に推進します。

さらに、燃料費や資材費が高騰する中、漁業コスト低減のための省エネ型漁船や機関等の導入、漁獲物の高付加価値化や就労環境の改善を図るための高鮮度保持設備や省力化機器等の貸与事業により、収益性の高い漁業経営を実現し、漁業所得の向上を図ります。

推進項目5 ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

食をめぐる市場の変化や多様な需要に対応し、地域の活性化と生産者所得の向上を図るため、地域のブランド農産物の産地強化・育成を推進します。そのため、関係機関や食品関連産業、観光業などと連携し、生産・加工・流通・消費までを一体的に見通した戦略を構築し、実践します。

具体的には、国指定野菜であるだいこん、にんじん産地の持続的な発展をはじめ、地元食品産業と連携した醤油醸造用小麦産地の発展、さらに、佐用もち大豆や山椒、バジル、ねぎ、落花生、枝豆、花壇苗、リンドウなど、地域に根付いた農産物の産地振興とブランド化を進めます。



生産者と実需者を結ぶ交流会
西播磨 FOOD MEETING(姫路市)

また、兵庫県認証食品や「西播磨フードセレクション」受賞食品など、地域食品のプロモーションを積極的に展開し、実需者と生産者のマッチングを促進することで、地域食品の生産・流通の拡大につなげます。

さらに、「ひょうご食品認証制度」への誘導や、GAP(農業生産工程管理)・HACCPの考え方に基づく生産体制の整備、商標取得、佐用もち大豆のような地理的表示(GI)保護制度を活用したPRなどによるブランド化を推進します。

加えて、農林水産業者と食品関連事業者との農商工連携や、地域特産物を活用した加工品の開発など、6次産業化を進めることで、新たなブランドや商品・サービスの創出に取り組めます。

推進項目6 食の安全を支える生産体制の確保

信頼される農産物の生産と安定供給を図るため、市場出荷される農産物はもとより、地産地消を支える農産物直売所の出荷者に対しても、栽培記録の記帳徹底と適正な農薬使用の啓発を進めます。

また、西播磨産の農産物や食品に対する信頼性を高めるため、「ひょうご食品認証制度」などを活用した生産体制の充実を推進します。

水産物については、県産アサリやマガキなどの二枚貝における貝毒蓄積状況や原因プランクトンのモニタリングを実施し、県民への適切な情報提供に努めます。さらに、より効果的なリスク管理を図るため、貝毒監視体制の整備や、貝毒原因プランクトンの発生動向の把握などを通じて、養殖業者の経営安定に取り組みます。

西播磨地域は、飼養頭羽数の多い大規模畜産経営体が多い地域です。鳥インフルエンザや豚熱、口蹄疫やアフリカ豚熱などの家畜伝染病の発生リスクが高まる中、国内外の発生状況の周知を行うとともに、家畜飼養衛生管理の徹底を図ります。あわせて、発生時に迅速な防疫措置を講じるための体制整備や防疫訓練の実施など、危機管理体制の強化に取り組みます。



栽培履歴記帳・農薬安全
使用講習会

推進項目7 農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

中山間地域をはじめとする農山村の維持・発展を図るため、多面的機能支払制度・中山間地域等直接支払制度の下、集落の話し合いによる合意形成を通じて、疏水の保全管理や「田んぼダム」の取組など多面的機能の維持・発揮に向けた活動を推進します。

また、田園風景や棚田、史跡、伝統行事といった地域資源を活かしながら、地域の農林水産物の直売や加工、高付加価値化に取り組むとともに、都市部との交流を促進し、交流人口の拡大を図ります。さらに、小・中・高生を対象とした絵画コンクールの開催などを通じて、ふるさとの風景を再発見する機会を提供し、将来の西播磨を担う青少年の郷土愛を育みます。

農村地域の集落機能を維持・強化するため、複数の集落の農家や非農家が連携して地域を運営する農村型地域運営組織(農村 RMO) の育成を進めます。あわせて、人材育成や特産物開発、スマート農業の導入支援などを通じて地域コミュニティの整備・強化を図ります。

野生動物による農林業被害への対応として、発生地域における誘引物除去、獣害防護柵の設置と維持管理、狩猟免許の取得支援、猟具や監視カメラの導入支援を行い、集落ぐるみの被害対策を強化します。これにより、野生動物の集落への出没抑制を図るとともに、管理計画に基づく適正な個体数管理を推進します。また、捕獲したシカなどの有効活用や付加価値向上に向けた技術開発と普及を進めます。

さらに、アユなどの増殖や河川の清掃活動、カワウによる食害防止のための捕獲技術の向上や広域的な捕獲体制の構築などを通じて、河川環境の保全を進めます。

雨水貯留機能を高める
「田んぼダム」(相生市)



絵画コンクール審査風景



集落一丸となり獣害軽減を
目指す研修会(たつの市)

推進項目8 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

西播磨地域には、豊かな自然環境や立地条件を活かした多彩な農林水産物があり、それらを原材料とした加工品が数多く生産されています。これら地域資源を活用した加工品の開発や販売などに取り組む農山漁村ビジネスを支援し、地域経済の活性化を図ります。

質の高い加工品の発掘と販売拡大を進めるため、「おいしさ」と「こだわり」にあふれる西播磨地域の特産加工品のコンテスト「西播磨フードセレクション」を継続して開催し、それらの魅力発信を支援します。

また、捕獲したシカなどをジビエとして有効活用するため、処理加工施設の整備や流通・販売体制の充実を支援し、地域における資源循環と新たなビジネスの創出を促進します。

さらに、「兵庫県バイオマス活用推進計画」に基づき、家畜ふん尿や食品廃棄物、木材系廃棄物、間伐材など、地域に豊富に存在する農林水産関連の有機性廃棄物や未利用資源をバイオマス資源として再生利用する取組を進めます。木質バイオマスの利用促進にあたっては、西播磨地域内での木質バイオマス発電施設への未利用木材の収集システムや、「木材ステーションさよう（未利用木材の収集基地）」など、地域ぐるみで行う収集・買取体制の整備を支援します。



西播磨フードセレクション 2023
グランプリ食品（相生市）

推進項目9 農山漁村の防災・減災対策の推進

近年、地域の農業者の減少や高齢化、混住化に伴い、ため池などの農業用施設の管理が困難になる中、局地的豪雨や線状降水帯などの極端な気象現象による災害の発生リスクが高まっています。

このため、決壊リスクの高いため池の改修や廃止、治水上不安定な井堰・樋門などの農業用河川工作物、海岸保全施設の整備を早急かつ計画的に進めます。また、ため池の適正な管理方法や豪雨時の事前放流、避難対策など、緊急時における対応の周知を図ります。あわせて、ため池の決壊に備え、住民の避難行動を促すハザードマップの作成・周知を継続するとともに、水位や映像をリアルタイムで確認できる「ため池監視システム」の導入を促進します。

山地防災については、土砂や流木の流出を防止するため、治山ダムなどの溪流対策を実施します。さらに、山腹崩壊・落石対策や地すべり防止対策を進めるとともに、既存施設の点検や維持修繕により、老朽化を防ぎ、施設の長寿命化を図ります。

また、減災対策の推進として、毎年6月を「豊かなむらを災害から守る月間」と定め、梅雨や台風期に備えて、県・市町・施設管理者等の合同パトロールを実施し、ため池や山地災害危険地区等の点検を行います。

漁業基盤である漁港については、生産・流通機能の強化を図るため、施設整備とともに老朽化施設の長寿命化を計画的に推進します。さらに、南海トラフ地震や気候変動の影響を考慮し、津波や高潮などの自然災害から地域住民の生命や財産を守るための防災対策を進めます。

ため池整備事業（上郡町）



治山事業(宍粟市)



防災パトロール（赤穂市）

推進項目 10 豊かな森づくりの推進

森林の公益的機能を維持・向上させるため、市町と連携し、森林環境譲与税を活用してスギ・ヒノキの人工林の間伐を推進するとともに、県民緑税を活用して山間奥地など収益性の低い高齢人工林について針広混交林化を進めます。

また、危険渓流域における土留工の設置や災害緩衝林、簡易流木止施設の整備を進め、森林の防災機能を強化します。

森林病虫害について、松くい虫やナラ枯れの防除など被害対策を推進するとともに、保安林及び林地開発許可制度を適切に運用し、県民の安全・安心の確保を図ります。

さらに、森林を県民共通の財産と位置づけ、里山林の再生を進めるとともに、地縁団体、NPO 法人、ボランティア団体、企業など多様な主体による活動を促し、豊かな森づくりを推進します。



針広混交林整備事業で植栽後に成林した広葉樹林(宍粟市)



緊急防災林整備(溪流対策)で整備した簡易防災施設(佐用町)

推進項目 11 「農」と多様な分野との連携強化

農林水産業の発展を図るため、食料生産の枠を越え、多様な分野との連携による新たな展開を進めます。

農業の働き手確保と福祉分野での就労機会の拡大を両立させる農福連携を推進し、地域社会の持続的な発展につなげます。取組の拡大に向け、県、市町及び関係団体の農政・福祉部局間の連携を強化し、双方からの相談に円滑に対応できる体制の構築と支援の充実を進めます。

また、佐用町のひまわり祭りや赤穂市のみかん狩りをはじめ、各地のいちご狩りやぶどう狩りなど、観光業や直売所との連携による地域特産物の販売促進を図ります。水産分野では、地域を代表する水産物である「播磨のかき」などの魅力を、漁協やカキ生産者の直売所などを通じて地域が一体となって発信します。

さらに、大規模農業者と短期アルバイトマッチング事業者との連携を促し、農繁期の労働力確保の円滑化と、農業に親しむ機会の拡大を進めます。



農福連携による山椒収穫作業(太子町)



農政・福祉部局が集合した農福連携推進会議(上郡町)

推進項目 12 県民とのつながりで育む食と「農」

地域の農林水産物や文化に触れる交流の場づくりとして、生産者自らの思いや取組を発信する「ひょうごオープンファーム」や、いちご・ぶどう・みかん・りんごなどの観光農園の推進を図ります。あわせて、「播磨のさかな」や「播磨のかき」などの地域水産物の魅力を発信し、地域農林水産物の消費拡大を進めます。

また、県民が西播磨地域の農林水産業に関心を持てるよう、豊かな自然や歴史、特産品などの地域資源を活かした魅力発信を行い、食と「農」に親しむ楽農生活のきっかけづくりを進めます。農山漁村と都市の住民が「農」を通じて交流し、相互理解を深めることで、交流人口・定住人口の拡大を目指します。

播磨のかき

このため、誰もが気軽に楽農生活を実践できる市民農園の開設を支援するとともに、二地域居住（デュアルライフ）や半農半Xを志向する都市住民の新しいライフスタイルの実現に向け、農園整備や空き家改修の支援を進めます。

さらに、観光を含めた地域の情報発信基地として農産物直売所の多機能化や農家レストラン・農林漁業体験施設などの整備を支援します。



飲食・加工・直売機能を持つ施設
味わいの里三日月(佐用町)

推進項目 13 県民への安定的な食料供給

西播磨地域において県民への安定的な食料供給を実現するため、生産から消費までを結びつけるフードチェーンの強化を推進します。

安定生産の面では、農産物の周年出荷を可能にする栽培技術の普及や、ハウス等の施設整備支援により、切れ目のない供給体制の構築を進めます。また、気候変動による収量や品質の低下リスクに対応するため、兵庫県が育成した高温耐性を持つ主食用米の新品種「コ・ノ・ホ・シ」の導入など、高温環境下でも安定生産が可能な作物・品種・技術の普及を進めます。



高温耐性品種「コ・ノ・ホ・シ」
(たつの市)

供給体制の面では、地元や近隣の食品関連事業者との連携を強化し、原材料としての農産物の生産・供給拡大や新たな食品開発を支援します。さらに、直売所における施設整備や「西播磨フードセレクション」受賞食品の販売コーナー設置を推進し、消費者が地域産品を手に取りやすい環境づくりを進めます。また、米をはじめとする地域農林水産物の学校給食への供給を拡大し、子どもたちが地域の食材に親しむ機会を増やすことで、将来にわたり地域産品を支える消費者の育成につなげます。

消費者の信頼確保の面では、HACCPの考え方に基づく衛生管理体制の普及を推進し、安全・安心で信頼される食料供給体制を確立することで西播磨地域の暮らしを支えます。

III 成果指標

指標名	R6 年度 (現状)	R12 年度 (中間目標)	R17 年度 (目標)
土地利用型作物のドローン防除実施面積 (ha)	1,125	1,600	2,000
素材生産量 (千m ³)	115※	138	158
漁場環境改善面積 (中播磨・西播磨) (ha)	346	358	364
兵庫県認証食品認証数 (食品)	500	525	550
新たな「田んぼダム」取組面積 (ha)	2,169	2,615	3,060
西播磨フードセレクション選定数 (食品)	73	79	85
ため池防災工事により安全性向上に着手した箇所数 (箇所)	25	79	99
山地災害危険区域の防災工事の着手箇所数 (箇所)	748	791	827
農福連携作業委託等件数 (件)	52	74	94
水稻の高温耐性品種の導入面積 (ha)	482	900	2,500

※ R5 数値